

イワナ

Salvelinus leucomaenis (Hilgendorf)
サケ目・サケ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

全国的に生息環境の悪化や釣獲圧等により減少している。福井県においても、大部分の生息地で生息条件が明らかに悪化しつつある。なお、本県は亜種レベルでは「ニッコウイワナ」の分布域とされるが、遺伝的研究の余地があるため種レベルの「イワナ」とした。

種の特徴

全長は普通 30 cm 程度であるが、大きいものは 60 cm を超える。体色は主に暗褐色で、白色斑点のほか橙色や黄色等の斑点もみられるが変異が大きい。水温が約 15℃ 以下の河川の最上流域に生息し、水生昆虫や魚類を食べる。

分布

北海道及び本州に分布する。本県では、九頭竜川水系・笙の川・北川・南川等の上流域で確認されているが、南川は移入されたものとされている。

生息を脅かす要因

砂防ダム等の河川横断工作物による移動の阻害、川岸の護岸や水質の悪化等の生息環境の悪化、過大な釣獲圧等が挙げられる。また、他地域からの放流個体により、確実な在来個体群は著しく減少している。

参考文献 福井県編 (2002)、環境省編 (2015)、中坊編 (2013)、川那部ら (2005)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○			○	○	○		○	○		○				○	○	○

キタノメダカ (メダカ北日本集団)

Oryzias sakaizumii Asai et al.
ダツ目・メダカ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

大部分の生息地で生息条件が明らかに悪化しつつある。また、個体数は減少傾向にあり、付近の生息地は限られる。外来種の影響等から個体数が減少し、県内の生息域も極めて限られる。

種の特徴

全長 4cm。小型の淡水魚で、体色は黒褐色を帯びる。ミナミメダカと形態は似るが、体側部の黒色素が強く、背鰭の切れ込みが浅い。平野部の池と沼、河川下流部の岸辺、水田とその用排水路等に生息している。温度、塩分、汚濁に比較的強い。

分布

青森県～京都府丹後半島東部までの日本海側に生息。県内では、広い範囲に分布する。

生息を脅かす要因

水田の圃場整備、河川の護岸工事により水路の流速が増したこと、水田と水路との落差ができ、乾田化したことにより、水田への侵入、繁殖が容易でなくなったことが要因である。他地域産や人工品種のメダカ等を放流することは本種の地域固有性・多様性を損失させる恐れがある。

参考文献 福井県編 (2002)、京都府編 (2015)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○

クルマサヨリ

Hyporhamphus intermedius (Cantor)
ダツ目・サヨリ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

2006～2007年にかけて行われた三方五湖の調査において、通年確認された。特に三方湖で多く、稚魚も確認されたことから三方湖で繁殖していると推測されるが、分布域がかなり限定されていることから選定した。

種の特徴

全長 15cm 程度。汽水性の魚で、5～10月には純淡水域まで侵入する。下顎先端の下面が黒色である。本種と似るサヨリは全長が 40 cm を超えることや下顎先端の下面が朱紅色であることから両者は区別できる。

分布

本州（太平洋側は青森県小川原沼以南）、九州（有明海側）に分布する。これまで九頭竜川下流、三方五湖、北潟湖で確認されている。

生息を脅かす要因

湖と河川の護岸工事、水質汚濁等で、本種の生息環境が悪化し、個体数が急速に減少したと思われる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会編 (1998)、宮地ら (1976)、中村 (1984)、福井県海浜自然センター (2011)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○			○							○		○				

淡水魚類